

第2回須賀小学校地域拠点施設検討委員会議録

1 開催日時

令和6年11月14日（木）19:00~20:50

2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

3 出席者

（委員）

原田幸代副委員長、中村隆委員、上田悟委員、佐々木誠委員長、唐松奈津子委員、
矢戸ゆみ委員、諸星香代子委員、荒木義雄委員

（事務局：町民生活課、子育て支援課、教育推進課）

新井庸一 町民生活課長、柴崎記代子 子育て支援課長、田中啓之 教育推進課長
小川雅也 教育推進課副課長、高橋道彰 教育推進課主査、埜中美也 教育推進課主任、
須原大輔 教育推進課主事、矢口陸 教育推進課主事

（須賀小学校地域拠点施設基本設計業務委託受託業者）

株式会社東畑建築事務所 久保久志、門脇寛子、株式会社 Life Work 内海慎一

4 欠席者

（委員）

石井大晴委員、金野泰久委員、谷義明委員、星野花恵委員、川野達則委員、斎藤夏未委員

5 次第

1 開会

2 第1回ワークショップ報告

3 配置計画について

4 意見交換

5 その他

6 閉会

6 議事（要旨）

1. 開会

佐々木委員長より挨拶。

荒木委員自己紹介。

2. 第1回ワークショップ報告

内海氏：第1回ワークショップについて、説明スライド1に沿って説明。

冒頭佐々木委員長からお話ありましたがこの建物の中で交わるだけじゃなくて、何か広がりが生まれるといいなっていう観点も含めてのテーマ設定をワークショップの中でもしています。ワークショップ振り返りなんですが、20人くらいの参加者想定で資料も30部ぐらいでいいかなと思っていた中で当日44人来てくれてですね、全然資料が足りないみたいなことになってバタバタしたんですけども、かなり地域のいろんな方が興味を持ってきてくださりました。ただ2回目・3回目に来られるかというところはまだちょっとわからないところもあるので、皆さん引き続きお知り合いの方へ参加をお願いしていただければと思います。当日は6テーブルぐらいに分かれて話し合ったんですけども今回はちょっとこじんまりと話を始めました。なぜかという、テーマを距離にしたんですけどもキュッと集まってから広がって使ってくればいいなと思ったからです。複合施設ができるにあたって、ここから大事なことの一つは、知った人が他の人に伝えることかなと思います。第3回目に魅力をしっかり伝えられるようになるというワークを入れようと思ってんですけども、1回目にちょっと現時点でどんなところが魅力と思うのかなってところを聞いてみてですね、それが3回目になるとこんなところも魅力だったっていうのが増えてきて、それをじわじわと工事期間中だったとかワークショップがない期間も伝えてもらって、喋ってる人の楽しさが周りの人に伝播してくるといいかなというのも思って少しこんな取組もしています。こんなところが魅力だったっていうのを話し合ってくださいました。そこからなんですけども、ちょっと距離の話をしていきます。これはどういうことかっていうと、エリアで広がっていくっていうのもあるんですけども、セキュリティも含めて、建物の中で心の距離が縮まると、それは物理的距離を超えてきたりですね、例えば駅から離れているって話もあるんですけども、この建物が身近に思えたその距離はもう少し軽やかなもので超えられるものがあるかもしれないということで、距離というものには物理的な距離と心理的なハードルみたいなものもあったりするっていうところも含めて何かワークでみんなと理解していければいいかなということで、このテーマにさせてもらいました。例えばパーソナルスペースだと、いろんな距離によって思いがあるんですけども、身近な方は近かったり、そうじゃない人は遠

かったり、どの距離で関わっていたいかみたいなことをちょっと話し合えたらいいかなということでやっていたんですけども、初めはパーソナルスペースを体感してみようってことで何種類か希望を用意して、このぐらいの距離だとどう感じますかとか、声届きますかとか、そんな話をしていきながら、例えばすごく密接な人はこういう人とか家族とかこのぐらいの距離で喋るんですけど、さすがに気恥ずかしいとか、そんな話をしてみたりとかする中で、距離の話をしていきます。心の距離ってテーマにしたもう一つの理由は何かっていうと、もちろん今回は基本設計のワークショップなので設計にも落とし込んでいきたいんですけど、例えばそれは運営でカバーできることもたくさんあって、ICTセキュリティを例えばインターネットの環境だったりとか、テクノロジーでコントロールするって方法もあるんですけど、挨拶をしたり名前がわかったりそんなことでできることもあると思うのでそのソフトの取組っていうのは人によるものなので、そこも両方意識できるといいかなと思っています。まずハードの図面を出したりすると、要望になる可能性もあったので、1回目は少し柔らかなめの建築が出ないテーマにして、建築のこと話したいっていうストレスも大丈夫かなっていう気もしてますので、2回目・3回目は話し合いの仕方をまた工夫していこうと思います。長くなりましたけれどもワークショップ報告は以上です。ありがとうございました。

佐々木委員長：今のことについて、ご参加された方のコメントもいただければと思います。

諸星委員：距離についてどんな距離？とも思いましたが、紐を用意していただいて、みんなを持って、どのぐらいの距離がいいのか、この感じだとちょっと恥ずかしいとかをやりながら、直線の距離感だけではなく、班によってはその高さの距離感みたいなのところもお話されていたり、子供たちと接したいって思う人と、見られたくないっていう方もいらっしゃるってかしてて、それでもなんかちょっと恥ずかしいとか普段そういう経験がないから見られたくないとおっしゃってるようで、何か一緒に何かをするきっかけについて、その方は70代で自分から発信でそういう活動をしていけないけれども、どなたかがそういうきっかけを作ってくれたら、もうちょっと子供たちと距離が近づいて恥ずかしいって言っていないで、声をかけたりとかしていけるんじゃないかみたいな話が出ていて、なんか少しずつ私達が話した内容を建築に活かしていただくっていうところを、このワークショップでやっていただいているっていうのが、何か終わる頃になってようやくなんで距離っていうのがあったんですけど、どういう建物を建てるとか具体的な話とかにもなっていくのかと思ったんですけど、その距離っていうのを、実際に建築される建築家の方がみんなの意見いろいろ聞いて、

建築していくところを想像していただくためのワークショップだったのかなっていうふうに私は思います。

荒木委員：前回参加できなかったのですが、私はこれまでずっと参加させていただいて、プロジェクトに関わらせてもらって、思うことはやっぱり共生社会を作っているって、やっぱりこういう地域の拠点と拠点を繋ぐ上で一時期あったスローガンの中に、障害を持って生きていく上で、地域で生きるってたくさんの親を作っていこうと、それは障害を持った人たちのたくさんの人たちがやっぱり 1 人で生活していくことがなかなか難しいことでも、地域でそういうふうに活動していくことで自分をまず知っていただくことによって、地域で生きていくっていうそういう所、障害があってもそういうことができていくっていう柱になっていくと思うので、ここは地域の拠点として市民の皆さんにとっていろんな活動でもって、教育活動としてもいろいろ活用していただきながら、本当に子供たちも老若男女問わずみんなの存在を知って、みんなが気軽に何か少しでもこれ面白そうと子供たちも、気軽に参加できたり、市民の方も何か最初はちょっと緊張することもあるかもしれませんが、会を重ねていくことで、子供たちの交流が楽しくなっていった地域がしやすくなるような環境作りっていうのをしっかりしてやったらもっと地域とその小学校を繋げることができるんじゃないかなって思うのでそういうふうにしていけたらなと思っています。

唐松委員：気づきとしては大きく私は個人的に二つありました。一つはまず心理的距離の話で、すごくうちのグループで印象的だったエピソードが 70 代 80 代のおじいちゃんだったと思いますが、ラジオ体操を子供たちがやってるのを、道の向こう側から眺めていたと眺めていて自分もちょっと一緒にやりたいなみたいなことをちょっと思いながら見てたんだけど、ある時その保護者がやっぱり不審者がいるっていうことで通報ではないですけども、何かそれでちょっと注意をされたみたいなことをおっしゃっていて多分おじいちゃんとしては交流も求めたし、一緒にやれるといいなとか、あとお母さんたちの何かお手伝いとかできることがないかなみたいな感じで様子をうかがってたらしいんですけどご本人はなんですけど、やっぱりその心理的距離によって何かのロスが生まれるのってすごいもったいないよねみたいなところを何か繋ぐやっぱり仕組みとか仕掛けは欲しいなっていうふうに思いました。もう一つがグループワークのときにやっぱりですね初めて参加されるっていう方がまだまだやっぱりすごく多いんだなと思って全然何なのかわかんないみたいなことをおっしゃられているおばあさまもいらっちゃって、なんかやっぱりまだ過程ではあるんですけど、な

んかこう、やっぱり今日ワークショップ行っただけとか、それでこんなことがあってねとか何かそれをなんかやっぱり広げられるような、何かそういうツールみたいなのもやっぱり欲しいなみたいなことはちょっと正直思っていて、昨年の参加のときにかわいいあのお土産を用意してくださって、お菓子とか、ピンバッチとかなんかあれもすごく可愛くて嬉しかったんですけど、できればやっぱりワークショップの内容に紐づくもの、今回の距離に関するテーマだったら例えば何て言うんですかね、定規の目盛りがついてる下敷きとか、何かメジャーとか、細長い紙でもいいロールテープでもいいんですけど、なんかメモリー書いてあって、今日こんなことやってとか、何かそういう広げるための仕掛けも何かもう少し考えられるといいなと思いました。

中村委員： 私町内会で防犯やっているんですが、防犯やってるとベストを着て、ユニフォームがあるんですけど、先生たちは防犯が来たなというような感じで見てくれるんですけど普通のこういう私服で行くと、さっき言われたように、どこのおじさんが来たんだろうと何しに来たんだろうかというような、怪訝な目で見られるような気がするんですね。やっぱり皆さんそうおっしゃるんですね。ちょうど今の時期の時間になると、私達が今防犯で回るのが5時からなんですね。5時には子供たちはもういないわけですけども年に2回日中やるんですね。そのときには法被を着ていくものですから、先生方も校門をちゃんと開いていただけます。普通だったらなかなかね、学校中には入れないですよ。受付に行くと、どういう用件で来たんだということの説明をして学校に入るわけですね。ただ、子供が普通の授業のときに私が用事があるって行くと、こんにちとは挨拶するんですけど、受付の先生方からはどこの人かなというような感じですよ。だからそういう地域と学校との密接な関係をね、もう少しやってもらえたらなと思うんですけども確かに須賀小学校の周りには和戸だけでも3400人の人口の方がいらっしゃいますから、全部が全部学校に行くとは限らないんですけども行った場合にねやっぱりいろいろ問題がありますからね、学校側としても一応は構えるんじゃないでしょうかね。ええ。私学校行くときいつも思うんですけど。

原田副委員長： 私の地域で、私の父は誰も頼まれてないんですけど、毎日和戸の交差点に立っているんですね。子供たちが帰る時間帯に、誰も頼んでないです。自分で自ら時間になったら行くぞって私の知らないところで。原田さんのお父さんありがとう。子供たちが助かってる。私の知らないところで知らないお母さんたちとの会話が始まって、帰ってきてかそういう話をされて、違うところでもそういう話をされてその距離を考えたときにパパネットのジャンパーを着てやってるん

ですけど、なんだろう、多分初めは知らないおじさんがいた、いる毎日いる。誰だろう、でも毎日毎日行くことによって、いつもいる方だよね、原田さんのお父さんなんだ。毎日立ってくれてるよね、知らないところでそういう話があって、いつもありがたいよねっていう、そういうところから距離感って生まれる自然と生まれるのかなっていう距離を作ろうじゃなくて、自然と生まれるこの連携感、連帯感というか、そういうのがすごいありがたいなって思いましたんで、やっぱり今施設とか、この今小学校の案が出ているんですけど、やっぱりそれって見せる建築なのか自分のその芸術のための建築なのか、それとも人が集まる建築なのか、本当用途用途によって建築デザインが変わっていくと思うんですよ。今回小学校とプラスコミュニティセンターの人が集まるそういう建築、いろんな要素が詰まってる建築だからこそ、本当大変だなってどういうふうにこれかなるんだらうって私もちょっと想像がつかないし、これをぱっと見ても何か、何だろう、何だろう想像がつかない中でやっていただいて大変だなって思いました。

3. 配置計画について

配布資料2に沿って説明。

配置計画検討について以下のプロセスを経て、D-3 案、D-4 案が現在の配置案。

- 9月10日 第1回整備推進委員会：A 案、B 案、C 案
- 10月2日 第1回役場関係課検討：A'案、D 案、E 案
- 10月17日 第2回役場関係課検討：A'-2 案、D-2 案
- 10月26日 第1回地域ワークショップ
- 11月5日 第3回役場関係課検討：D-3 案、D-4 案

東畑建築事務所：配置検討のプロセスを経て、D-3 案と D-4 案を今日お持ちしました。ワークショップで出た意見の中で距離のアイデアというのがたくさん出たんですけど、いろいろ距離のアイデアをいただいた中で、すごく大切だなっていうのをところが2つありまして、この距離を考える上で大切な視点っていうところで、距離の調整が自分でできることが大切。これはハードでも対応できるようなことだと思うんですよ。例えば近い距離だけど、扉を閉めることで物理的に距離を遠くするっていうことだったりだとか、あとはガラスによって見える見えない、壁になったら見えないなどそういう高さの話もありましたけど何かそういう距離の調整が自分でできるっていうことが大切だったり、あと距離を変えられる物理的な広さや長さっていうところでカーテンを閉めたら、距離が縮まったり距離が離れたりだとかそういう何か建築的操作っていうところに参考意見があったのかなということで直接今のプランに大きく変更点があるっていうわけで

はないんですけどこれはちょっと頭の中に入れながら、これから設計していくと良くなるなということを感じます。D3-案、D-4 案にあまり違いはなく、真ん中のこのメディアセンターっていうところの作り方がちょっと違うだけ基本的には D-3 案を説明させていただきます。ブルーの部分と黄色の部分が学校の部分で、この緑の部分が交流施設になります。紫のところが学童保育所です。体育館については大きいので日陰を作らないように北側に配置しています。交流施設スペースの真ん中に事務室を置いて交流施設とメディアセンターを繋げられるようにしています。学童保育所は、保育室が三つあるんですけど、一つは可動間仕切りを仕切れば二つになるし、開ければ一体的に使うこともできます。反対側にちょっと分棟みたいな形になっているのは、将来的にもし子供の数が減ってきたときに、学童保育に通う子供たちの数も減ってきますので、そうなった場合に、例えば保育室についていうのを地域側からも使えるようにしておけば、地域のスペースとして有効的に活用できるかっていうことで、分散配置しています。管理系の部屋については、学校の意見も聞きながら合理的な配置っていうのはどこなんだろうねっていうことで職員室と保健室、校長室からはグラウンドが見えるような形にして子供たちが見えるような位置に配置して、配膳室は車の往来を考えて歩車分離しながら配置しています。特別教室についてですが、家庭科室が防災面で有事のときに、例えば炊き出ししたりだとそういう可能性も出てきますので、この中でもなるべく中庭側において体育館と連携したり、使えるようにしています。図工室ではデッキがあると思うんですけどこれを使いながら、外からでも開放できるような形で図工室を配置して、理科室は生物を育てたり、植物を育てたりしますので日当たりが良い南側に配置しています。音楽室についてですが、地域の意見を聞いたときに、地域側から使いたいっていうのもあったので、なるべく地域に近いところに配置しています。メディアセンターの作り方っていうのはこれから蔵書数とかも明確にしながら、書架はどうなのかなみたいな話だったり、閲覧スペースなどをこれからちょっと詰めていきたいと思っています。今日の議題の一つにもなるんですけども体育館でちょっと話が出ましたのは、屋外のトイレなんですね。この小学校のエリアの中に、外で土日活動をしたときとかに外からもすぐ使えるトイレがあるんじゃないかっていうこともありまして、配置しています。防災倉庫ですが、風雨等への対策で室内にしています。更衣室が要るのか要らないか問題っていうのもありまして、常に使うわけではないので例えばちょっとしたミーティングみたいなこともできる兼用室としてあればいいんじゃないかっていうことで、教室の半分ぐらいの大きさなんですけど、それをさらに半分にして、ミーティングなどのいろんな使い方ができる部屋にした方がいいんじゃないかっていうことで、このような形で配置しています。現在の小学校体育館は解体し、住民

の駐車場として今 33 台ぐらい確保しております。意見を聞いている中で、図書室をもっと地域側で有効に使いたいとのことから、D-4 案の特徴として、D-3 案のメディアセンターのスペースを地域の方が自由に使えるメディアセンターと学校が優先して使えるメディアラボの二つに分けた配置としています。

4. 意見交換

上田委員：9 月 10 日に、第 1 回の委員会があり A 案の方向性で決まった中でその後今の段階で D-3 案、D-4 案ということで経緯がわかりました。その背景もわかったんですが、ただちょっとお話されたと思うんですが、10 月 2 日と 10 月 17 日は、どなたの集まりで話し合いされましたか。

東畑建築事務所：教育推進課と子育て支援課、町民生活課、財政の皆さんもいらっしゃいました。

上田委員：はいわかりました。その背景がわかんないというふうに決まったのかなと。

穴戸委員：職員室は 2 階でなくても大丈夫ですか。

東畑建築事務所：最終的には 1 階がやっぱりいいっていうようなご意見いただきまして、やっぱり子供たちを 1 階部分で見守れる方がやっぱりいいなということで、2 階は 2 階でクラスルームのメインフロア内にその先生たちが身近にいるっていうメリットもあるんですけど、やっぱり地域の方たちが使ったりするのは 1 階だったりするのでそこでしっかりした目線を、やっぱり見守りの目線を作りたいとのこと。あとは保健室とかっていうのが 2 階に上がっちゃうと、やっぱり何か有事があったときに対応が深刻になっちゃうんでそれ考えるやっぱり 1 階っていうお話をいただきました。

穴戸委員：2 階の教員コーナーっていうスペースがあるんですけど、ここが先生たちのスペースですか。

東畑建築事務所：そうですね。2 階に常時先生がいるエリアが教室しかなくなってしまうんで、授業時間帯は先生が 2 階にいますが、授業時間帯以外のときに、子供たちがちょっと気軽に質問しに来てくれたりするスペースを想定しています。

唐松委員：子供たちの通学・車の動線についてなんですけど、A 案の時と変わらないのでしょうか。

東畑建築事務所：変わらないです。

上田委員：特別支援学級は、基本的には職員室に近いところというのが基本なんですね。何かあったらすぐ駆けつけられる。この案では真ん中辺であり、今の須賀小は本当に全然違うところなんですよね。保健室はやっぱり職員室から近いところですが外が見えるという配置でいいのかなと思いました。

東畑建築事務所：特別支援教室に関しましては、学校と相談し、普通学級の関係性っていうのがやっぱり一番大事なことということで、1階に置くっていう話もあるんですけども、普段子供たちと接しれるような場所にも置いてあげたいっていうようなご意見もありましたので、それも踏まえて今2階にあるような状況です。

諸星委員：真ん中にあることで自分の親学級の方に行くときにも近いところに教室があるっていうのいいなってちょっと私はそういうふうに思いました。

佐々木委員長：2階の配置については、学校のワークショップをこれから先生方に聞くんですね。

東畑建築事務所：はい、予定しています。

原田副委員長：2階なんですけど教室について今後児童が減っていく前提なんですか。

東畑建築事務所：両方の話があります。

原田副委員長：ある学校では、子供が減っている中で、将来施設にしようと、バリアフリーの入ったそういう平屋の小学校の児童が増えてしまって、教室を増設したと。そういう話を聞くと、今後ここはどうなっていくんだろうなっていうことを、あとメディアラボで図書館みたいなそういうものを入れるってなったときにもはたしてこのスペースで足りるのかなとか。また、外からも入れるトイレについて、いろんな人が集まる中でそのトイレってどうなんだろうなって、安全性はどうなんだろうっていうのは感じました。

東畑建築事務所：外と内側のどちらかの鍵を閉めておくことはできます。

諸星委員：昨年度の検討委員会の時に昇降口は2階がいいよねっていう意見が出ていて、

避難をするときも 1 階に一つっていうと、そこに集中しちゃうという話をしているすごく盛り上がってたんですけど、今回のこれでいくと 2 階に上がっていくってというのがとてもいい形になってきたのかなって思ってます。学童でも先生たちに A 案を今こんな設計が上がってるっていうのでちょっと見てもらってたんです。A 案のときの三角の外のスペースがいいなって声が多かったです。

東畑建築事務所：同じようなスペースづくりについて、検討していきます。

上田委員：第 1 校舎近くのイチョウの木はどうなるんですか。

東畑建築事務所：グラウンドの面積を確保する必要があるので、伐採予定です。

諸星委員：学校の周りに樹木を残してもらえると、もしくは新たに植えていただいて実のなるものがあると子供たちにとっても良いと思います。

宍戸委員：イチョウの木を切った場合、何かつくれるんでしょうか。

中村委員：イチョウの木はまな板が作れるらしいです。
また、この和室って書いてあるんですけど、これは畳敷きですか。

東畑建築事務所：今現時点では和室畳敷きなんですけど、この畳敷きで大きい部屋をそのまま作るか、畳敷きの部屋は小さな部屋にして、洋室の方を大きくするかっていうのをどうしようっていう議論が今起こっています。

中村委員：私集会場の管理もしてるんですけども 3 年前にバリアフリーで板張りにしたんですね。地域の人たちに聞くと、畳の部屋は、結局今までは踊りとか何とかで使ってたんだけど、今踊りをやる人もいないとどちらかっていうと踊りするにしても、何ていうんですか、靴を履いて踊るから、できたらその畳敷きっていうのはですね、やはり皆さんですね、高齢の方が多くいもんですから膝が痛いとかだからやっぱり椅子がいいってということで椅子にしたんですけどね。和戸の人たちは椅子と机の方がいいかもしれません。

佐々木委員長：和戸公民館の方の話を聞く機会ってあるんですか。

東畑建築事務所：昨年ヒアリングをしました。

小川副課長：昨年のヒアリングをしたのと、やはり床材の方がいいのかっていう話があるので、公民館を使用されている方には話を聞こうと思っています。

上田委員：私はよく敬老会にマジックショーで呼ばれますが、出席率のいいのは、机、椅子です。和室を作るならば、板張りのところと畳があるところを分けるとか、いろいろ方法があるんじゃないかと思います。

佐々木委員長：メディアセンター等についても意見交換をできたらと思います。

東畑建築事務所：メディアセンターは今学校作りにおいては全国的に言われてる話で、図書館とパソコン室が一体になったような場所で、昔は図書館が、本だけ読む場所だったんですけどもうちょっと居場所として、例えば談笑している子がいてもいいし、1人の子がいてもいいしグループでもいいしいろんな子の居場所になるといいなことで、フリースペースと図書のスペースを兼用したようなスペースとしています。

穴戸委員：保護者の目線からだと、学校外の人と交わる可能性があるのは大丈夫かなって少し思いました。学校にいた間は安全だと思っているので。

東畑建築事務所：地域の方々がメディアセンターを自由に使えるようにすると、どこからしらで区切る必要があります。地域の方々が日中も使用できるようにするのか、放課後だけにするのかも考える必要があります。

穴戸委員：図書を読みたい人は早い時間から来たいと思うので、時間制限はない方がよいと思います。子供たちとの共存をうまくできるといいと思います。

東畑建築事務所：D-4 案だとうまく区分けできるかなと思います。作手小学校の事例見せたと思うんですけど小学校と地域の施設が隣接していて、お互いの図書館行き来できるんですけど子供たちが喜んでるのは地域の方の本を自由に見ることができるので学校の図書館だとなない雑誌関係とか、そういうのはメリットなので、これも単にメディアセンターっていうだけで、学校図書館と同じ本しか置いてないんだとしたら、子供にとってはちょっと新発見みたいなものはないので、地域側からの本も置いてあげることで、子供たちが何か新しい世界と繋がれるようにできればと思います。

穴戸委員：登録制にするのもいいのかもしれないね。

佐々木委員長：ワークショップの意見でもあったと思いますが、可変性を持たせることで選択しを用意しといてあげると、管理者側の学校とかが選択できるっていう余地を残しておく、いいのかもしれないね。

荒木委員：登録制のスペースが良いと思います。そこに参加したい方は登録すれば良いと分かり易くなるので。誰でも使用できる多目的なスペースと登録制のスペースの両方があると子供たちも地域の方々も安心して使用できると思います。

佐々木委員長：交流スペースについて、こないだのワークショップのときのとっかかりとして、フリースペースがあるっていうのが結構大きな目玉かなっていう印象がすごくあって、フリースペースを介していろんな人が繋がったり出てきたりとか、何かそういうイメージとなんかちょっと違うなという印象もあるんですけど、その辺はいかがでしょうか。

東畑建築事務所：交流スペースとメディアセンターを含めたものがフリースペースかなっていうふうに考えて作っています。細長くなるっていうのはやっぱり敷地の形状とかの影響がありますので、イメージ図をこの敷地に合わせて変形するとこのような形です。

佐々木委員長：外も含めてある程度開放できるともう少し膨らんできて、半屋外とか外も含めて考えることができるのではないかなと思います。

穴戸委員：交流スペースは飲食できるんですか。

東畑建築事務所：これから検討していく必要があります。

穴戸委員：現在、和戸公民館の2階で卓球をしている団体があると思いますが、この案だと多目的ホールでやる感じですかね。

東畑建築事務所：そうですね。洋室と和室の大きさを変えると、また別の可能性も出てくると思います。

佐々木委員長：ちょっと気になってるのは、地域の人にとってどう見えるのかなっていうところで、楓の広場が象徴的なんだけど、囲まれすぎて外から見えない。外の人が入り

やすいのかないうのがちょっと気になってるんですよ。公共施設マネジメントのときも結構出ましたが目的がなくても立ち寄れるっていうときには、何となく活動が見えると、この間のワークショップもフリースペースっていうのがなんかいろんな活動がいろんな部屋から出入りしたりとか音が聞こえたりしてるっていうのが関係ない人も何となくふらっと寄ったらそういうのを感じて何かちょっと近寄ってみたくなるみたいなそういう関係性があるといいなって地域の拠点という意味ではそうと思いますが、フリースペースが囲まれ過ぎるように平面図で見ると見えてしまって先ほど中村委員が言われてたように、地域の方々が何か学校に入りづらい地域の雰囲気っていうのが本当に解消できるんだろうかと思います。

東畑建築事務所：その辺りは解消していかないといけないと思っています。ただ、道路沿いにあった校舎がなくなってですね、校舎全体の敷地が見渡せるようになった環境っていうのは、これまでよりは良くなると思います。まだまだ考えしろがあると思います。

諸星委員：地域施設が校庭側にある方が校庭に出ている子供たちから地域の人々の活動が見えるのかなっていうのも思ったんですけど、メディアセンターのところと間に学童が入ると難しくなりますよね。

上田委員：防犯の面も考慮しながら、地域に開かれた学校づくりについて、大事な点なので引き続き検討をお願いします。

5. その他

小川副課長：来週末に地域ワークショップ第2回がありますので、是非御参加ください。

また、第3回のワークショップの日に須賀小のどんぐりピアノのテレビ取材に伴う撮影がありますので、よろしければ12月14日13時に須賀小学校の正面玄関にお越しください。

6. 閉会